

イチゴ新品種の育成

～優良系統の最終選抜～

1. はじめに

農業試験場では、‘まりひめ’および‘紀の香’に続く品種として、2016年から炭疽病に耐病性のある良食味、多収で市場性の高い優良系統の育成に取り組んでおり、2020年度作までに「IC5」、「MI2」、「JI6」の3系統を選抜した（表1）。今回、2021年度作において、上記3系統から1系統「JI6」を選抜したので報告する。

表1 交配組み合わせ

交配組み合わせ	♀(子房親)	×	♂(花粉親)
IC5	紀の香	×	かおり野
MI2	まりひめ	×	紀の香
JI6	J77	×	紀の香

J77: ♀かおり野×♂さちのか

‘まりひめ’および‘紀の香’より多かった（表2）。また、糖度および酸度は3系統とも‘まりひめ’と同等以上で、糖度は「JI6」が最も高く、酸度は「IC5」が高かった（表3）。

果実硬度は2～4月まで「JI6」が最も高い値を示した（図2）。

炭疽病耐病性については、3系統とも‘まりひめ’より高かった（データ省略）。

以上の結果から最も目的に合った優良系統である「JI6」を選抜した。

表3 選抜系統の糖度および酸度の比較

	IC5	MI2	JI6	紀の香	まりひめ
糖度(Brix)	10.6	10.1	11.4	10.7	10.1
酸度(%)	0.47	0.41	0.41	0.47	0.31
糖酸比	22.4	24.6	28.0	22.9	32.4

糖酸比: 糖度/酸度 ※2021年11月～2022年4月に週1回調査、n=5/回

2. 育成経過

2016年～17年に6品種・系統を交配し、得られた約5600個体から系統選抜を繰り返し、2021年までに3系統を選抜した（図1）。2021年度に、収量、糖酸度、果実硬度などを調査するとともに、県内現地圃場5か所において現地適応性試験を実施し、それらの結果から1系統を選抜した。

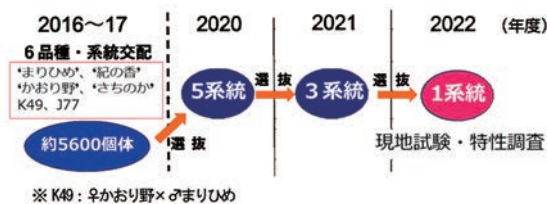


図1 育種経過 (2016年～2022年度)

3. 選抜結果

収量について、「JI6」および「MI2」は

表2 選抜系統の月別収穫重量の比較 (2021年度)

	収穫重量 (g/株)						
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
IC5	13.6	9.8	21.7	107.7	134.7	167.3	454.9
MI2	23.7	119.0	66.1	22.5	141.8	259.2	632.4
JI6	40.9	88.2	38.9	31.0	145.1	291.5	635.6
紀の香	44.2	8.1	5.0	119.3	144.0	210.9	531.5
まりひめ	2.2	64.9	79.0	23.5	88.6	176.4	434.6

9/15定植（まりひめのみ9/17定植）、土耕栽培（畝幅120cm、株間25cm、2条千鳥植え）

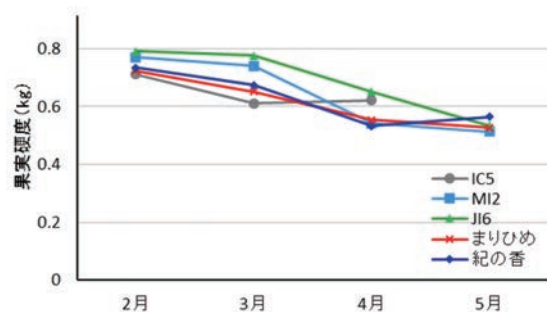


図2 選抜系統における果実硬度の比較
※2022年2～5月に週1回調査（IC5は4月まで）、n=5/回

4. 今後の方向

今年度は現地圃場7か所で「JI6」の適応性試験を行っており、現地検討会などを通して、生産者に優良品種として周知するとともに、品種登録に向けて必要な調査を行っていく。

(栽培部 田中 郁)